

会 議 の 概 要

会議名		令和 6 年度(2024 年度) 第 2 回宝塚市観光振興会議
開催日時		令和 7 年(2025 年)1 月 10 日(金) 10 時 00 分から 12 時 00 分
開催場所		宝塚市役所 第 2 庁舎 会議室 A
出席者	委員	吉兼会長、和田副会長、土井委員、横山委員、布村委員、村井委員
	事務局	産業文化部長、観光文化振興担当次長、観光にぎわい課長、観光にぎわい課係長 2 名、観光にぎわい課職員 1 名、手塚治虫記念館長
公開の可否		可
傍聴者		0 名
議題及び結果の概要		
1 開会		
(1) 市挨拶：産業文化部長		
今年は万博という大きな行事がある。本日の会議では、忌憚のないご意見をいただき、今年 1 年頑張っていきたい。よろしくお願いします。		
(2) 会議の成立		
(宝塚市観光振興会議規則第 6 条第 2 項の規定により、成立)		
(出席委員 6 名)		
(3) 会長挨拶		
委員) 値段がなければ、海外の人が商品を買えないため、今まで観光資源でなかったもののために、タリフを作らないといけないという話を最近のフォーラムで話してきた。		
(4) 傍聴について		
事務局より宝塚市観光振興会議傍聴要領の説明を行う。		
傍聴者の有無、確認：傍聴希望者なし		
(5) 議事録について		
事務局より議事録に関する説明を行う。		
2 議題		
議題 1 観光にぎわい課・宝塚市国際観光協会の観光に関する主なイベント紹介		

事務局から観光にぎわい課・宝塚市国際観光協会の観光に関する主なイベント紹介を行い、その後質疑を行う。

委員) 西谷地区でのイベントは何かなかったのか。

事務局) 多くありますが、観光にぎわい課主体のものはない。他課主体であれば、市花ダリアのブーケを花のみちに並べ、ギネス記録に認定されたイベントを行った。

事務局) 農の魅力創造課では、兵庫県の取組であるひょうご里山フェスタを宝塚市で初めて開催した。西谷の中学校のグラウンドを借りて、大自然の中で西谷地区の啓発等を行った。

委員) ウェルネスツーリズム採択事業で、ダリア園の行灯バスツアーを旅行会社に商品化してもらい、昨年度は人数も集まったが、イベント前日から大雨が降り、中止となった。今年は約 30 名の集客ができた。

委員) 戦略のコンセプトであるウェルネスツーリズムでは、西谷地区は大事な地域である。情報として知っておきたいため、観光にぎわい課主体のものでなくとも、宝塚市全体で観光として行っているイベント等は箇条書きでもよいからリストがあったほうが良い。

委員) ウェルネスツーリズム推進事業は県と国どちらの事業か。

事務局) 市の事業である。

スタートアップの時に補助し、事業を立ち上げてもらい、2 回目以降の開催は自力で実施してもらう。

委員) 野外のイベントは、再使用できるかごみの処理をどうするか、SDGs や環境問題を意識しながら観光を行っていく必要があるが、宝塚ランタンはどうしているか。

事務局) ランタンに紐がついているため、回収して廃棄している。再利用はできない。ランタンの周りも環境に配慮して、和紙を使用している。

委員) コーヒーフェスティバルは、市外のコーヒー屋も参加しているということだが、どれぐらい参加していたか。

事務局) 30 店舗程度の参加のうち、約半数が市内の店舗だった。市外は遠いところで、鳥取県や滋賀県から出店している。

参加店舗を募集し、実行委員会で選定している。

議題 2 観光客動向実態調査等報告

事務局から観光客動向実態調査等報告を行い、その後質疑を行う。

委員) インバウンドの方は手塚治虫記念館が目玉になっているのか。手塚治虫記

念館以外の市内の場所も観光しているのか。

事務局) レストランに訪れたり、温泉もあるため、宿泊してほしいが、手塚治虫記念館ほどの人数はまだ流れてはいない。

委員) 手塚治虫記念館に訪問するインバウンドの方の国籍は様々なのか。

事務局) 手塚治虫記念館に訪れたインバウンドの方の割合としては中国が多く、アメリカ、香港、台湾の順。物理的距離があるが、オーストラリアやフランスからも来ていただいている。

委員) 手塚治虫記念館では原画の展示が多いのか。

事務局) 常設展示には原画は少ないが、企画展を年3回行っており、概ね1回は手塚作品、2回は他の方の作品で、その時には原画も展示している。

デジタル化により原画も貴重なものとなっている。国も最近は原画の保存方法等に関する調査を行っている。

委員) コーヒーフェスティバルに参加したお客さんの生の声は何か聞いているか。

事務局) コーヒー好きだけでなくゆったりとした空間を楽しむ方も多い。普段飲まない市外のコーヒーを楽しむ方もいる。

コーヒーフェスティバルは全国展開しているため、フェスティバルの固定客もいる。

委員) 参加者が変わりそうな昼も夜も開催しており、大々的に行っている。

事務局) 夜は仕事帰りの方が、参加することもある。

委員) 宿泊者数が少ないが、各宿泊施設の稼働率はどうか。

事務局) 施設によって特色があり、大劇場がある関係で宝塚ホテルは稼働率が高い。宝塚歌劇が休演しているときは、宿泊数が減る。

事務局) 春や秋は近隣でホテルをとれなかったインバウンドの方が宿泊することもある。団体客の宿泊はあまりない。

議題3 令和7年度(2025年度)の宝塚市観光振興戦略の時点更新(後期アクションプランの作成)について

事務局から令和7年度(2025年度)の宝塚市観光振興戦略の時点更新(後期アクションプランの作成)について、説明を行い、その後質疑を行う。

委員) 50年前の万博がマスツーリズム元年となり、そこから誰でも観光するようになった。今回の万博はそこまで日本にインパクトを与えるかはわからないが、社会が変化しているため、違う展開になるかもしれない。

データが世の中にいくらでもある時代になったが、取得するのにお金がかかる。宝塚市だけでなく県とも協力して自前でデータを取得できる体制が必要に

なる。

競争相手は国内だけでなく海外でもあるため、業者を入れずに後期計画を策定するには、そういうことも検討しなければいけない。そういうことに詳しい方をオブザーバーとして委員に入れてやっていかないといけない。

どうなるかわからないが、万博によって何か変化が起こる気配があるため、そういったことも検討しながら後期計画を策定していったほしい。我々が強調した西谷地区に力を入れた内容になっていると嬉しい。

委員) 宿泊者数がまだコロナ前の数を超えていないということだが、兵庫県ではようやく、兵庫アフターデスティネーションキャンペーン実施期間中 (R6. 7 ~ R6. 9) のべ宿泊者数が、コロナ前を 10% 以上上回る結果となった (参考 : 観光庁・宿泊旅行統計調査)。ひょうご観光本部では、海外の商談会等で、大阪・京都は満室で泊まれないという話をよく聞くため、大阪のすぐ近くの宝塚市に温泉があることを PR している。大阪や京都だけでなく兵庫県にも色々あることを PR していく。

事務局) 駅から歩いて行ける温泉やホテルは少ないため、1つの強みと考えている。

委員) まだキラーコンテンツではないが、今まで知られていなかったタンサンや市花のダリアが、推されて少し効果が出ているかなと感じる。単体でもコンテンツとして大きくしていき、連携できれば良いと思う。

インバウンドの方は、日本中を見たいため、単品で見て帰る。リピートしてみているうちに泊まったらよかったなと思ってもらえる仕組みが必要になる。また主催者だけでなく、お客さんも発信してもらえるような自慢したくなる仕組みが必要になる。

委員) ウェルネスツーリズムは外国人も関わるため、活かさない手はないと思う。手塚作品など、もっと色々なものをウェルネスツーリズムにつなげていく必要がある。ウェルネスツーリズムは心も体も健康にということで色々つながられそうなのにまだ点で線となっていない。例えばインバウンドの方に手塚治虫記念館に行ってもらった後、武田尾の廃線敷を歩いてもらい最後に温泉に行ってもらおう。

インバウンドの方は大阪でご飯を食べて、宝塚市が行って帰るだけの場所になってしまっているため、ウェルネスポイントを作って、滞在時間を延ばしたい。

宝塚歌劇を外国人は見ないのか。

事務局) コアなファン層によって日本人でも取得が難しく、インバウンド向けの対応が難しい。

委員) 生で見るか見ないかで大きく違うため、ミニコンサートや小劇場での公演

でさわりだけでも見られたなら今後のファンにつながっていくと思う。

(1) その他

各委員から所属団体の取り組み等について共有

委員) 万博関連はひょうご観光本部の施策と連携している。

チケットを売っている海外の OTA チャンネルマネージャーのようなところで手塚治虫記念館のチケットを買える契約を進めている。

富裕層向けのオーダーメイド旅行として商品化し、BtoB サイト「LUXURY HYOGO JAPAN」に掲載している。

令和 5 年度に商品化されたツアーを、首都圏で開催される商談会に参加して紹介する。

また、池田市のカップヌードルミュージアムにインバウンドの方が多く訪れているが、そのまま帰ってしまうため、池田市を中心に兵庫にも広域的に周遊してもらえるようなことができればなと検討中である。

委員) 宿泊についてバイヤーからは「ゴールデンルートはそろそろ飽きた。次はどこかいいい場所はないか。宿泊施設を紹介してほしい。」と言われることが多い。大阪の隣で便利な宝塚温泉を紹介している。大阪・京都に訪問される方にプラス 1 の訪問地として兵庫県を選んでもらうことを主眼としている。

昨年の夏実施した兵庫アフターデスティネーションキャンペーンで、交通機関と連携した周遊パスを売り出したところ、京都大阪滋賀の人を含めたくさんの方に買っていただけたため、兵庫県は周遊の対象にしてもらえるエリアであるとわかった。万博が開催されれば、関西に来た方が京都に行くのではなく兵庫県に来てもらえるようにプロモーションしていく。

委員) 京都のガイドブックはあるが、関西のガイドブックはあまりないが、関西というのは海外ではどのくらいのネームバリューなのか。

委員) 大阪と京都は有名であるが、兵庫というネームバリューはまだまだ。姫路城は日本の城の中でもインバウンドの方に大変人気で有名な城。姫路城等のコンテンツを紹介しつつ、宿泊はこちら（宝塚市）と紹介していきたい。

委員) 西谷を中心に展開した事業としては、宝塚市国際観光協会と協力して、10 月のダリアの時期にバスを用意して、JR 宝塚駅からダリア園、宝塚北 SA を周るツアーを実施し、40 名が参加した。西谷商工振興会と一緒に西谷収穫祭で西谷の農産物を販売した。1 月 26 日は西谷ふれあい夢プラザで、西谷の物産展や催しを行う西谷元気まつりを開催する。

2 月 1 日からは宝塚歌劇が 1 か月休演するため、観光客を呼び込むためのラインを使ったデジタルスタンプラリーを実施する予定。市内 9 か所にスタンプ

を設置し、市内を周ってもらいながらそのうち4か所を集めてもらおうと商品を応募できる。また、スタンプラリーに参加してもらおうと市内29店舗で特典を受けられる。

3月8日に花のみち周辺でキラキラマルシェ&コスプレ撮影会を開催する。3月8日が国際女性デーのため、女性を中心としたマルシェとソリオのメインステージでイベントを行い、市外からの観光客を呼び込むためコスプレ撮影会を行う。

委員) ダリアについては、花の咲き終わり前に花を切って、その花を寺社や商店街等に奉納して花手水のように水に浮かべて、花を愛でるような二次的な利用をしてはどうか。

また、読み込むと歌劇の方や声優の解説音声が出る QR コードを観光スポットに設置してはどうか。

委員) 阪神北県民局では阪神北管内14か所のひょうごフィールドパビリオンをめぐるツアーをコース別に3回実施した。

また、14か所のフィールドパビリオンを取材し、月に2本ずつ程度Instagramやホームページで紹介している。宝塚市には3か所のフィールドパビリオンがあり、西谷地区も含まれている。

来年はアフター万博に向けフィールドパビリオンを含む阪神北地域の魅力をさらに発信していけるような事業を実施していきたい。

委員) フィールドパビリオンはぜひ成功してほしい。

1つのコンテンツだけ成功するのではなく、「そうだ 京都、行こう。」が成立するように地域がブランド化していかなければならない。

委員) アフター万博という言葉が響いた。万博がそろそろ始まるが、もうすでにその後を考えないといけないと感じた。フィールドパビリオンをどのように利用していくか等、宝塚市もアフター万博を計画する必要がある。

委員) 万博が終われば会場やパビリオンは解体すると思うので、一部を譲ってもらい、万博のレガシーとして展示できないか。

事務局) 今は工事で見るできないが淡路島で行われた花博の展示品をもらって、宝塚市で展示していることもあった。

委員) トイレカーを最近勧めている。新しくトイレを整備するにはお金がかかり、簡易トイレは汚いことが多いため、有料でもきれいなトイレを使いたい人はいる。市で購入しなくてもイベントの時だけ業者からレンタルできればよい。自衛隊や大きい市の消防署ならトイレカーを持っているところもあり、災害時にも利用できる。

ミカン畑のモノレールのようにガードレールにモノレールを設置し、荷物の運搬や具合の悪い人が乗車できるような新しい二次交通を山岳地帯で実験し

てほしい。

フランスのストラスブールはトラムがあちこちに走っており、停留所と歩行者天国を一体化して整備し、歩行者天国が非常に多い。歩行者にとって安全にすることで、二次交通がなくても人が歩くようになる。車がない区間を作るのもかえって良いのではないか。

(2) 次回について

前回の委員の委嘱から2年経つため、このメンバーで集まる会議としては最後となる旨、事務局より説明

3 閉会